

# 全国職訓校交流集会 ミニ弁論大会で最優秀賞 友人夫妻の起業を支援、転職して建築の世界へ

# カレッジ通信

編集・発行  
東京建築カレッジ

授業見学  
大歓迎！

TEL  
03-  
5950-1771



写真左から、佐藤里志副理事長（建築設備担当講師）、小林謙二学校長、山本繁樹事務局長、メルドラムさん、小林さん、渡辺理事（タイル実習講師）、木下さん、本多さん

建築系の認定職業訓練校の代表が全国から集まる交流集会が6月7～8日、佐賀県で開催され、東京建築カレッジ2年生の小林香菜子さん（中野区の建築塗装会社勤務）がミニ弁論大会で最優秀賞を受賞しました。参加した本校の渡辺義久理事長は「その場にいた誰もが納得する素晴らしいスピーチでした。事前の準備も万全でした」と話していました。

この集会の正式名は「第46回全国職業訓練生及び講師・実務担当者交流集会」。本校の母体、東京土建一般労働組合が加入する全国建設労働組合連合が主催し、傘下の建築系の認定職業訓練校が約70校を対象に毎年行なっているものです。今年度は17校、研修生48人、講師・指導員や事務局60人、計108人が参加しました。本校は2年

生（第22期生）の木下絢加さん（大工）・小林香菜子さん（塗装）、1年生（第23期生）の本多忠勝さん（大工）・メルドラム・マーティンさん（大工）を代表派遣しました。

最優秀賞を受賞した小林香菜子さんのミニ弁論の全文を紹介します。

なぜ建築の職業に就いたのか、学校に来て思うこと・学んでいること、今後についての抱負・決意

小林 香菜子

私は、建築塗装会社である現職場に入社する前の約10年間、保険会社で働いていました。保険会社では、電話で連絡を取る顔の見えない接客、お金の絡むセンシティブな現場時には理不尽なことにより電話越しに怒られることも。それで

## 第24期生募集中！

只今来年4月入学生を募集中です。  
学校説明会は8月29日（水）午後2時から・午後7時から、第1回入学選考会の応募締切は9月6日（木）、試験日は9月12日（水）午前10時から。  
詳しくはお問い合わせください。



「手刻みは楽しいですよ！」カレッジフレームを完成させて喜ぶ1年生（第23期生）の春田昌哉さん

私が今も続けているものの中に、中学生時代の吹奏楽部で始めたトランペットがあります。トランペットを吹くときは、2人だったり、ときには100人だったり、常に誰かと一緒に演奏をしていました。演奏というミッシェンの中で大勢の中に属しながら、人間関係に

音楽活動がきっかけ

もひたすら傾聴の姿勢で、向き合っていました。顔の見えない接客でも、「あなたに担当してもらえてよかった」と思っていただけのように、どうやって信頼関係を構築していくか、そんなことを考える日々でした。

10年前、塗装会社のサラリーマンだった社長は、30代は人の為に生きると決めて、音楽の舞台から降り地域活動を始め、住まいである中野や地元福島の横のつながりを広げていました。商店街

ついてトレーニグされてきたのだと思います。人によってはスポーツだったり、演劇だったりするところが、私にとっては音楽でした。今の会社の社長の奥さんと私をつなげたのも音楽でした。彼女はシンガーであり、現社長はそのバックダンサーでした。そんな彼女は、保険会社時代の仲が良かった同僚の一人であり今も交流が続いています。

# 自分の成長のため基本から勉強を



元気良く話す小林香菜子さん。事前に原稿を準備、先生方から内容や話し方の指導を受けて臨みました。

や、街の団体のお困りごとがあれば、塗装仕事の合間に力を貸し、次々と新しいプロジェクトを立ち上げていました。私は保険会社で働きたがらも、社長が行う各プロジェクトで足りないところをサポートするようにしました。

そんな中、社長は独立を決め、2014年、36歳で株式会社又リースを設立しました。社長と奥さんの2人で、メインは建築塗装、サイドプロジェクトとして地域イベントの企画

## 塗装と地域活動

運営事業を行う会社です。私は引き続き、保険会社の仕事の合間に、又リースのサポートを続けました。また、「塗装に専念するべき」と助言もいただいたと聞き、しかし独立できたのは、地域活動での出会い、繋がりによって多くを学んだからであり、お世話になった方々への恩返しのため、又リースの継続において地域プロジェクトはそのため社長はマネジメント強化が必要であると考え、私に社員として迎えてくださいました。

私で役に立てるならば必要とされているところで仕事ができる、私も社長のように、支えてきてくれた人たちに恩返しをしたい、そう思い、入社を決意しました。これが私にとって建築業界への入口となりました。

## そして建築カレッジへ

とはいっても、私には建築の知識がありませんでした。そんな私に、社長が見つけてきてくれたのが「東京建築カレッジ」でした。指定科目をすべて履修すれば、二級建築士の受験資格が得られるというのも大きな魅力で、会社を大きくするステップのため、そして自分のキャリアアップのために基本から勉強しよう、と入学を決めました。

決めたものの不安はたくさんありました。又リースにおいての私の実務と離れたカテゴリーの勉強は回り道なのではないか、職人じゃない私は相手にしてもらえないのではないかと、このような不安が尽きませんでした。さらに、私は結婚しており共働きのため、この環境で学生

## 規矩（きく）術入門を学ぶ

正確で美しいものづくりを可能にする規矩術。「数学ってこんなに役に立つのか」そんな声が聞こえそうです。大工はもちろん、大工以外の専門職の研修生にも知的刺激あふれる授業が始まりました。（6月22日、橋本英夫講師「木造工作法」）

## 1年生の授業から



## ミネラルウォーターの硬度を調べる

樋口佳樹講師の「建築環境演習Ⅰ」。6月23日の授業では「ミネラルウォーターの硬度を調べる」、「水道水にジュースを入れてCOD（化学的酸素要求量、水質汚濁の指標の一つ）という2つの実験を行ないました。人間の活動と自然環境の関係を体験型で学んでいます。



# 一人でも多くの女性に 建築カレッジの可能性伝えたい

になるといふのが想像をもつきませんでした。しかし学校生活も1年2か月経過した今は、こういった不安はありません。

カレッジでは、伝

統工法技術、製図、建築法規、構造力学、CAD（コンピュータ支援設計）など、建築の基本はもちろん、さまざまなかたちで、ワークを通じて、自分の意見を人に伝えること、人の意見を聞くこと、も身に付きます。学びたい気持ちがあれば分け隔てなく先生方や教務の方々が親身になってくださるため、技術が乏しいからと言って物怖じせず、わからないことは質問できる環境があることは、とても贅沢で恵まれていることだと思っと思っています。まさ

に、聞くは一時の恥、聞かぬは一生の恥という気持ちで私はいます。

かけがえのない  
出会い

カレッジの同級生には、大工として現場で活躍している人、高校を卒業しカレッジで学んでいる新社会人、その他にも子育てと仕事を両立させているお父さんお母さんなど、多種多様な人がいます。建築業界で必死に頑張っているみんなとの出会いで得たものは、とても大きいです。時には現場も手伝ってくれる非常に頼もしい同級生です。カレッジには、2年間の集大成として、卒業制作があります。個人もしくは任意の

チームを組み、汎用性のある作品を作るプロジェクトです。来年3月の発表に向けて、私のチームは土台が2尺のお神輿（みこし）を作るため、授業終了後の夜7時から自主的に集まり作業を進めています。完成後は、カレッジにゆかりのある街のイベントで、子どもたちに担いでもらえることをめざし、お神輿の歴史や構造を学びながら製作に取り掛かっています。

1年2か月経過した今は、カレッジで学ぶ環境があること、困ったときは相談できる人がいること、が自信につながって、会社や営業先でも自分の言葉で話ができるようになりました。その効果が出て仕事の相談を受けること

が多くなり、それに応えることで周りの人たちが喜んでくれることが、今は一番うれしいです。協力してくれる社長や奥さん、応援してくれる夫や家族に感謝いたします。

「社長の右腕」  
が目標

卒業後は今年6月で5期目を迎える会社を「社長の右腕」となり、さらに大きくすることが目標です。そう思えるのもカレッジという環境が、私に自信をくれたからです。職人の方はもちろん、私と同じように会社の運営や営業を任されている一人でも多くの女性に、東京建築カレッジの可能性を知っていただきたいです。以上、私の仕事のことと周囲への感謝についてお話しさせていただきました。ありがとうございました。ありがとうございました。

## 埼玉県飯能市で林業体験

6月23日、杉の苗木の除草刈りを体験する林業実習を行いました。実習先の埼玉県南西部・西川材産地では、志を共有する設計・施工者とも連携した市場創造型の取り組みが進んでいます（「NPO法人 西川・森の市場」など）。その中心人物、飯能市の林業家、井上淳治さん（「木楽里」代表）からは「木の家づくりに携わる君たちこそ、木の魅力を語れる人になってもらいたい」と激励されました。

### 2年生の授業から



右写真⇨急斜面で除草刈りの重労働を体験

左写真の左端は、国内林業の現実と今後の展望を語る林業家・井上淳治さん



# 職業能力開発短期大学校 東京建築カレッジ 第20回公開講座

## 古民家を活かす、ひらく、つなげる。 ～コミュニティデザインの視点から～（仮題）

私たちにとって理想の住まいとはなんでしょうか？  
自分と家族が暮らす家が、住み手のだれにとっても快適で便利であることはとても大切なことですが、住まいのある地域やそこで生きる人びとが生き生きとしていることも、より良い暮らしを実現するうえで欠かせないのではないのでしょうか？

日本はすでに超高齢化社会に突入、少子化の影響でどの分野でも若い人が減り、後継者の不足が深刻です。地域を見わたすと、シャッター街化した商店街、空き家の増加が目立ちます。これらに雇用の不安定化、貧困の拡大が重なり、暗い雰囲気がじわじわと広がっている感じです。しかし、その一方で、“この社会の主役は私たち！”の自覚を持ち、自分の暮らす地域や人とかわり、お互いの自由を尊重し、なにげないことを楽しみながら、人生を豊かにしていこう！という明るく元気な取り組みがあちこちで始まっています。これは“コミュニティデザイン”と呼ばれる活動です。

※右上写真は八王子市小津（おつ）集落



そんな動きのなかで、建築には何ができるのでしょうか！？

人と社会の居場所（空間）を創造できるのが建築であり、その役割は大きいと思います。そこで、今回の公開講座では、コミュニティデザインに貢献する建築のあり方の一つとして「古民家再生」の事例を紹介し、「今、建築のできること！」を考えあう広場をつくることにしました。

○開催日時 2018年10月21日（日） 午後1時～5時（予定）

○会場 けんせつプラザ東京 5階大会議室

○第1部 事例報告と問題提起

\*関谷 真一 氏（一級建築士、結設計室 代表取締役、東京建築カレッジ講師）

・・・八王子市北西部・小津地区における空き家対策から始まった地域再生の取り組み

\*鈴木 陽子 氏（一級建築士、鈴木陽子建築設計事務所 代表、世田谷あいのみ研究会発起人）

・・・鎌倉「材木座の家」の物語、世田谷区における新しい公共の実践など

○第2部 パネルディスカッション

「誰もが自由に生き生きできる地域づくり。

今、建築のできること！」東京建築カレッジ卒業生や講師&指導員がディスカッション。地域の再生に取り組む市民の皆さんからの建築への期待の声もお聞きします。

参加無料



東京建築カレッジの研修生派遣事業主会総会・研修交流会が6月27日、池袋校舎で開かれ、9事業所11人の事業主が出席しました。先生方、理事などを含め約30人の参加でした。

研修会では第20期から毎年、社員大工を入学させている相羽建設（東村山市）の相羽健太郎社長（左写真）が若手人材の確保と育成をテーマに講演しました。

相羽社長は小学生では人気職種の大工が成長と共に志望者が激減する理由は「単純にカッコよくないからであり、またキャリアプランを明示することが重要」と力説。「この課題で事業主は連携しよう」と呼びかけました。